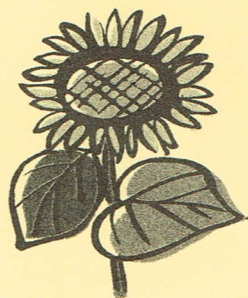


No	住 所	氏 名	備 考
1	尼瀬	加藤 順紀	地区推薦
2	尼瀬	磯田 正志	地区推薦
3	尼瀬	太田 修治	地区推薦
4	尼瀬	小黑 秀男	地区推薦
5	住吉町	磯野 立豊	地区推薦
6	石井町	野崎 勝彦	地区推薦
7	羽黒町	石井 久代	地区推薦
8	羽黒町	高桑 和彦	地区推薦
9	羽黒町	茂木 雄一	地区推薦
10	羽黒町	太古 誠一	地区推薦
11	鳴滝町	仙海 豊	地区推薦
12	木折町	阿部 チサ子	地区推薦
13	木折町	石井 ミツ	地区推薦
14	井鼻	松永 信義	会計
15	木折町	長谷川 隆	
16	羽黒町	高坂 一弘	
17	別ヶ谷	大谷 茂	監事
18	石井町	磯木 ヨシエ	
19	川西	田中 政孝	
20	大門	磯部 友記雄	
21	尼瀬	小黑 淳	
22	住吉町	磯野 猛	
23	鳴滝町	中越 孝一	
24	羽黒町	曾根 良子	
25	鳴滝町	小林 等	監事
26	井鼻	渡辺 常侃	会長
27	羽黒町	佐々木 貞治	
28	住吉町	村越 隆夫	副会長
29	石井町	納谷 稔	
30	石井町	関根 一祥	副会長



○かわらばんの発行
かわらばん「妻入り」を年
三回発行します(四・八・
一月)

出雲崎妻入りの街並景観推進協議
会の総会を六月三日に開催し、前
年度の事業報告及び決算報告、今
年度の事業計画及び予算、役員に

ついて承認及び決定をいただきま
した。
前年度は、町屋等の全11の会場
で「街並ギャラリー」を開催した

推進協議会総会開催

かわらばん 妻入り

事務局

新潟県出雲崎町

教育委員会

☎0258-78-2250

FAX 78-4559

ほか、新潟日報社主催の「にいが
た協育プロジェクト」や先進地視
察などを行いました。

また、今までの活動が認められ、
国土交通大臣表彰を受賞すること
ができました。今後も協議会会員
が一人となつて活動していきたい
と思います。

今年度の各グループの事業計画
は、次のとおりです。

Aグループ

○先進地視察

街並みがきれいに整備されてい
るところや、地域づくり・街の活

性化に熱心に取り組んでいる所に
視察に行きたいと思っています。

Bグループ

○おもしろ看板の設置

出雲崎の昔話を看板にし、地域
の皆さんはもとより、散策に訪れ
た方々から楽しく『妻入りの街並
み』を歩いていただける様にと今
年度も看板を随時設置する予定で
います。皆さんの知っている地域
の昔話がありましたら、情報をお
寄せください。また、看板の設置
場所を提供いただける方も合わせ
てお知らせくださいます様、お願
いいたします。

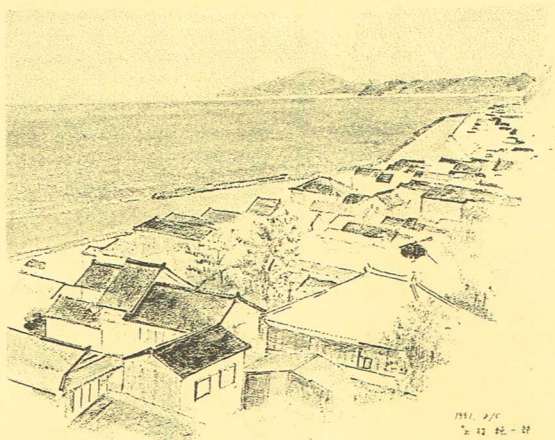
Cグループ

出雲崎に赴任して

出雲崎中学校

校長 土屋 和也

晴れた日、寺泊から佐渡島を見ながら妻入りの街を目指し通勤するのは一日のやる気を喚起させてくれます。井鼻海岸から丘陵地にあると一気に緑豊かな風景に変わり心を落ち着かせてくれます。一日の勤務が終わり、再び海岸線に出ると日本海に沈む夕日を眺めながらの帰宅となり、心をリセットさせてもらえます。



出雲崎中学校に赴任して3ヶ月半。自然に恵まれた環境の中で落ち着いて勤務できる喜びでいっぱいです。

子ども達も、明るく素直で、諸活動に真面目に一生懸命に取り組んでくれます。これは、出雲崎町の海あり、山ありの豊かな自然が子ども達を鍛え・育んできたからと考えられます。

私は寺泊で生活するようになって二十五年位になります。恥ずかしながら、隣の地域に住んでいながら出雲崎町を訪れたことはありませんでした。ほとんど素通り状態でした。天領の里に家族で立ち寄ったり、良寛記念館を訪れ一歳になった長女と記念写真を撮って帰った思い出くらいしかありません。

出雲崎は石油が採れ、佐渡からの金銀を陸揚げする要地としての天領といった政治・経済史的に重要地でした。さらに良寛さんや妻入りの町並み保存等で文化財も豊

かな町で、「心」の豊かさを感じさせてくれる町でもあります。

これから、夏を迎えれば海辺での海水浴と雄大な夕日。秋には学校の中庭や周辺はどのような色合いを見せてくれるのか。冬は北西風が厳しそう。しかし、厳しさの中にもたくましく大地に根を張り生き抜く木々や長年の風雨を堪え忍び人々を守ってきた温かい町並み等、出雲崎における四季折々の自然の移ろいを楽しませてもらうと思っています。

出雲崎に赴任して

県立出雲崎高等学校

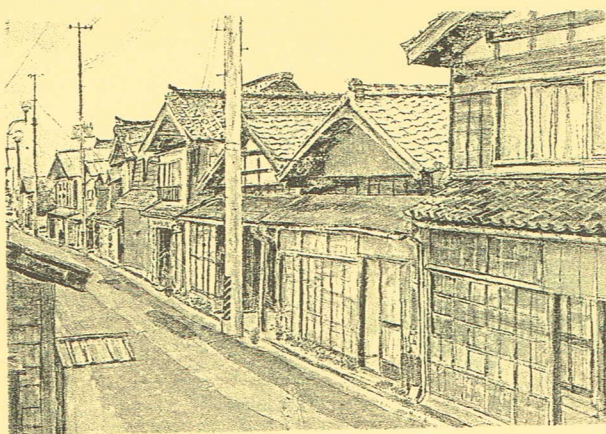
校長 大坂 久雄

四月に新潟江南高校から出雲崎高校に赴任してまいりました、よろしく願います。

「妻入り」という言葉について、最初は何のことかと思いましたが、出雲崎の海岸通りの街並みのことであるとわかり、その規模からも、歴史的にも貴重な有形文化財であ

ることを認識しました。

十数年前に柏崎に住んでいたこともあり、出雲崎へは過去にも度々立ち寄ったり、通り過ぎたりしました。今回の異動で、出雲崎に住んで、まだ三ヶ月余りしか経っていませんが、しつとりと落ち着いて生活できるように思います。良寛をはじめ松尾芭蕉、日本の石油機械掘り発祥地等、歴史感溢れ、豊かな自然あり、海産物、農産物あり、実に住み心地の良い町であ



ると感じています。私の故郷(佐渡)と風情が重なるところもあり、所によつては錯覚します。特に江戸時代には天領地でもあり、佐渡との交流が盛んであったこの地と私は何か御縁があったのでしょうか。

とは言つても出雲崎が佐渡と決定的に異なる点は陸続きであることです。そのこともあり、かつて出雲崎は北前船の寄港地として、北国街道等の交通の要所として栄えたところであると思います。そのようなことで、勤務し、生活している私にとつて出雲崎はまた親近感を覚える所です。

まだ、じっくりと町を散策してはいませんが、一番驚いたのは出雲崎駅前にある「出雲崎高校生よ明日に向かってはばたけ」等の激励の看板でした。今後、四季の変化を感じ、わくわくしながら、出雲崎の風土や歴史を堪能したいと思つていきます。最後になりましたが、出雲崎の皆様には本校のため

だきお礼申し上げます。駅前にある看板に応えられるよう頑張りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

景観形成における

住民の合意形成の研究

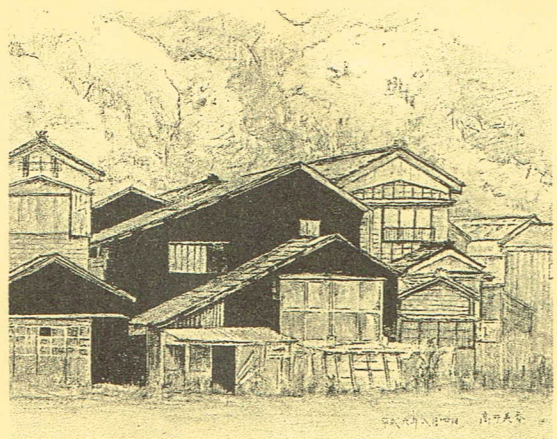
新潟工科大学建築学科卒業

齋川 祐亮

この文章を読んでいるみなさん、初めまして。去年の4月から今年の2月位まで、見慣れない若者が自転車を引きながらカメラを片手に歩いていたかもしれませんが、それは私のことです。

ではまず軽く自己紹介をします。

①出身↓新潟市(旧豊栄市)、②出雲崎と関わることとなった経緯↓柏崎の大学に進学した際、通うために大門にある祖父母の家に下宿させてもらった、③妻入りの街並を研究テーマに選んだ理由↓私の師匠であるT准教授の紹介で初めてこの街並を歩いた時、こんなにも美しい街並がこの世に存在した



のかと衝撃を受けたため。

ではさっそく私が学生時代に何をやっていったのかを説明します。

まず、この街並を残す、あるいは改修等で街並を統一するためにはみなさんの合意なくしてなし得ません。そのために、行政や協議会の方たちがみなさんから合意を得ようと、様々な活動を行ってきました。その結果、この街並の歴史的重要さや価値といった、一定の理解を得ることができたといえます。しかし、実際に合意にまでは至ったとはいえないでしょう。そ

れはなぜか？それは、現在町民のみなさん、行政、協議会の3者間で大きく意識のズレが生じてしまったことが原因であるからです。そこで私はこのズレの生じた過程を明らかにしようと思いました。

結論として、一九九八年のガイドライン策定が大きな契機となったと言え、見直し等この3者は議論が必要であるといえます。

最後に一言申し上げます。みなさんはこの街並は古くさいと思うかもしれませんが、世界遺産のように今と文化が違うからこそ価値があるものです。是非とも妻入りの街並を誇ってください。

妻入りの街並

上中条 山後 絵美

先日、妻入り会館で渡邊さんに妻入りの街並についてお話を聞かせていただきました。

大学の課題で「文化財登録されていない中で指定をするなら」というものがあり、私は出雲崎の妻

入りの街並を指定にしたいと思い、調べることにしました。妻入り会館で渡邊さんのお話を聞いていくうちに、出雲崎の歴史、文化、それらに対する妻入りの役割などがわかりました。江戸時代、天領だった出雲崎は越後一人口が多くこの地方一帯の政治、経済、交通の中心でした。当時は商家も多く大変賑わっていました。その当時の様子を現代に残しているのが妻入りの街並なのです。また、^{3.6}kmにも及ぶものが変わらず残っているということは大変珍しく貴重であり、これからも出雲崎の歴史、文化を伝えていく上でも後世に残していきたい街並だと思います。出雲崎の街並を文化財指定するには課題も多くあります。^{3.6}km全てを指定するには難しいこと、景観保存のあり方、そこに住む人々の暮らしなどです。出雲崎の街並を指定することで、人々の暮らしに負担がかかるということはあつてはならないことです。人々

の暮らしがあつてこそその街並であり、その街並を変わず守ることが文化財保存の持つ役割だと思います。

課題も多くありますが、この出雲崎の街並が変わらず残っていくことはとても素晴らしいことだと思います。

妻入りの街（三十六）

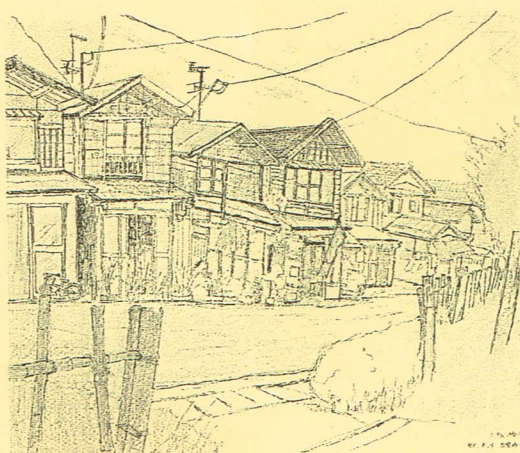
住吉町

磯野 猛

北国街道と出雲崎

慶長五年（一六〇〇）徳川家康が天下統一の政権を手にして、財政力の一つとして佐渡の金・銀開発に全力を傾け、大久保長安を佐渡奉行に任命して多くの金と銀を手に入れました。その金・銀を江戸へ送るために陸揚港として出雲崎が選ばれたのです。そうなるとうる整備が必要になります。この時代の街道は公用道路として五つの街道がありました。東海道・日光街道・奥州街道・甲州街道・中

山道の五街道です。徳川幕府はこの公用道の中へ佐渡の金・銀を送る道路の重要なものとして出雲崎から信州追分までの道を整備して「北国街道」と名付け、一里塚を築かせ宿場町を指定します。その宿場町は金・銀や公文書など幕府にとつて重要な輸送するためのものとして「伝馬宿」を定め、人馬の交通などの保護条例を作りました。この公用輸送の特権はいろいろなものがありますが「伝馬宿」に関しては各種雑役・普請などの労役など免除され、公用荷物の継



立運送や將軍発行の「朱印状」などの無賃運送が行われたのです。そのため宿場指定をうけた伝馬宿や宿場町の宿屋以外では旅人の宿泊を禁止して営業の便宜をはかりました。伝馬宿には人間（役人）や公用の荷物などを運ぶための馬を用意させました。

公用の文書や荷物でも將軍の御朱印状が発行されるものと、老中の證文のものの二種があり、金銀は將軍の御朱印がつけられ特別な扱いで江戸送りされております。

このような街道の道すじに沿って宿屋だけでなく商家・各種職人の住居が道をはさんで両側に細かく建てられて行きます。土地が少ないため海と山にはさまれた道路にビッシリと細長い家が建てられました。間口が広いと税金が高いため平均的なものとして「三間間口」の家が多く作られました。

これが妻入りの町並みとなります。出雲崎が幕府直轄領となるのはこの初期の元和二年（一六一六）

です。代官所が設置され、毎年の幕府の決定した法律が申し渡されることになり、年貢と川普請などの取り決めの度出雲崎代官の支配する各村々から役人が呼び出され出雲崎へ集まりました。これらの人々を宿泊させたのが「御宿」と

いつて普段は別の仕事をもった人たちが「宿場」として営業することができました。もちろん公用の宿も営業をやりました。人が多く集まればいろいろと物資の集散もはげしくこの町が繁昌していったのです。特に人の出入りはげしかったのは年貢米の集荷、発送です。船で運び込み、運び出す仕事で労働人口を必要としました。また將軍の代替りで必ず来た巡見使などの場合は物資だけでなく役人・労役の人々で町は賑わったようです。出雲崎が代官による政治の中心地であったことが北国街道の起点として栄えたことと云われるわけです。

「妻入り」の家並についてよく質問されます。正面から見て屋根

が三角形だと云う説明ですと理解されにくいので次のような説明が良いかと存じます。

「道路に面して棟木が直角に建てられた家」です。少しくわしく云うと、一番高い屋根の「大棟木」が通りに対して直角のものを「妻入り」、それに対して「大棟木」が平行に建てられたものを「平入り」の家と呼ぶ、などで良いかと存じます。

日本建築学会では次のように説明しております。

日本の伝統的な住宅の様式は、邸宅・農家・長屋・町屋の四種で、通りに面し、軒を連ねた市街地の一戸建ての住宅を「町屋」と呼びます。この町屋には「妻入り」と「平入り」の二種があるとしております。

ですから「妻入り」は棟木が通りに面して直角そして屋根が三角であると云えば良いと思います。私たちの家は妻入りの町屋です。

出雲崎合同大祭について

石井町 納谷 稔

毎年六月一七日・一八日に行われていた合同大祭今年は一七日だけでした。子供達はずいぶんがっかりしたのではないのでしょうか。

実は、露天商の人から今年からは出店は出来ないと言われ役場の観光課に連絡が有ったそうです。今までの長いお付き合いで出店していたが赤字が嵩むだけで困るとのことです。しかし露天の出ない祭りは盛り上がりがないし、子供達の楽しみが無くなるのは困るとのことです。観光課の人が何とか交渉してくれました。一七日だけ出店することになりました。かなり難儀した交渉ではなかったかと思えます。

祭りの醍醐味といったら、御神輿ですが、御神輿の一番見どころは、しもから戻ってきた御神輿が石井神社の前であり、住吉神社の前でありそれからUターンしてもう一度住吉神社、石井神社とあります。この時かっいでいる

人達は限界を超え気力だけで頑張っています。最後に良寛堂に入れば終わりですがなかなか入れさしてくれない押し問答も迫力が有りますね。しかし、もつと知られてない見どころは、一七日の朝、石井神社の横にある小屋から御神輿を出し狭い階段を冷や汗をかきながら下ろしてくる様はとても迫力がありすばらしいと自分ながら思います。

ここで、この祭りの豆知識。実は一七日の祭りは前夜祭です。本祭りは、一八日の午後から石井神社の中で厳かに行われます。一度参列したことがあります。神主さんののりと後に神様？を見させて頂きました。一部の人しか知らないことと思いいここに紹介致しました。



つれづれに・・・

妻入り会館・来訪者のひとこと

○震災前に予定していた新潟県への旅。思い切って来てみました。途中、青いシートのかかった屋根に心が痛みました。観光客のいない静かな出雲崎をゆっくり巡らせて頂きました。管理人の方がとてもやさしく、いろんなお話を聞かせて下さいました。ありがとうございます。

(大阪府羽曳野市)

○昨夜は当地に泊まり魚が新鮮でおいしかった。夕日の沈むところ、妻入りの家並みを歩きながら楽しみました。地震のつめあとは見えていない所に多くあり

(漁師さん達も大変とのこと)

(兵庫県神戸市)

○地震の調査で来たのですが、国道の北側と南側で被害が異なることにおどろきました。

(新潟市西区真砂)

○地震調査の途中で寄らせていただきました。宿場町の雰囲気がとても良かったです。

(新潟市西区五十嵐)

○初めて出雲崎の町中をゆっくりとめぐらせていただきました。素晴らしいスケッチ画の数々を見る事も出来、いい思い出となりました。又、楽しい話をありがとうございました。

(新潟市西区)

○妻入り街道の記事を見たこともあつて今日それが実現した。災害地の一日も早い復興を祈るばかりです。

(茨城県水戸市)

○良寛様の史跡を訪ねて来ました。漁師町の名残りも残る静かな街中を散策、旅情あふれる素敵な街でした。

(新潟市中央区太右エ門新田)

お知らせ

街並みギャラリー

十月二日～四日開催予定

毎年好評の「街並みギャラリー」を、今年も例年より一週早く、十月二日（金）から四日（日）の三日間開催します。

全部で三〇〇点を数える、東京藝術大学大学院生による街並みスケッチ画を妻入りの町屋で展示いたします。是非、ご鑑賞下さい。

出雲崎総合大学

「妻入りの街並みめぐり」開催!

10月17日（土）の午後一時から、出雲崎総合大学で「妻入りの街並みめぐり」を開催します。

総合大学の受講申込みをされていない方でも参加できますので、興味のある方はお気軽に町教育委員会までお問い合わせください。大勢の方の参加をお待ちしています。

あとがき

うつつうしい梅雨がなかなか、明けない毎日です。近年毎年梅雨の時期には雨による大災害がくり返されています。山口県や九州地方では集中豪雨のため特養ホームの老人が亡くなり、高速道路では土砂がくずれ、かつてない雨量が記録されています。世界的にも環境破壊による災害被害も多く、地球温暖化がそれらを引き起こしているのではないかといわれています。私達も良い地球環境を大切にしたいですね。

新潟県も早く梅雨明けを！蝉のいい鳴き声も聞きたいです！、日本海にもくもくとした入道雲や、青い空、青い海の海水浴日和を迎えたいものです。梅雨明けをした地方でも豪雨が有り雨の降り続く毎日のまま夏も終わりそのまま秋を迎えることになります。暑い夏日でもいやですが、蒸し蒸し梅雨も、早くさようならです。

石井町2丁目 野崎 勝彦